

目次

日記・書簡

日記

滞独日記（一九三八—一九四〇年）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

書簡

内藤益一宛（一九二六年）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 197

小川秀樹宛（一九三二年）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 198

仁科芳雄宛（一九三二年）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 199

湯川秀樹宛（一九三三年）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 200

仁科芳雄宛（一九三四年）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 202

湯川秀樹宛（一九三五年）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203

山崎文男宛（一九三六年）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 207

有山兼孝・玉木英彦・小林稔宛（一九三六年）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 208

松井卷之助宛（一九五八年）	254
川合仁志宛（一九六〇年）	255
長島順清宛（一九六八年）	256
中林陸夫宛（一九六九年）	258
松井卷之助宛（一九六九年）	259
広瀬富美子宛（一九七二年）	260
木庭二郎宛（一九七二年）	261
オーゲ・ボーア宛（一九七四年）	272
江沢洋宛（一九七六年）	274
小堀憲宛（一九七七年）	275
小和口雪子宛（一九七八年）	277
序文・推薦文	
『量子力学』（Ⅰ）序文	281
『量子力学的世界像』序	284
『物理学読本』編者の言葉	285
『近世における「我」の自覚史』（朝永三十郎著）文庫版のために	286
『物理の歴史』あとがき	287
『量子力学』（Ⅱ）序	289
『岩波講座現代物理学』編集者の言葉	291

玉木英彦宛（一九三六年）	209
有山兼孝・玉木英彦・竹内証宛（一九三六年）	210
玉木英彦宛（一九三六年）	211
有山兼孝・玉木英彦宛（一九三六年）	212
朝永三十郎宛（一九三七年）	213
仁科芳雄宛（一九三七年）	216
玉木英彦宛（一九三七年）	217
湯川秀樹・坂田昌一宛（一九三八年）	221
湯川秀樹・坂田昌一・武谷三男宛（一九三八年）	224
湯川秀樹宛（一九三八年）	227
仁科芳雄宛（一九三八年）	228
朝永三十郎宛（一九三九年）	233
玉木英彦宛（一九三九年）	236
仁科芳雄宛（一九三九年）	238
仁科芳雄宛（一九四〇年）	244
野上彌生子宛（一九四八年）	245
福田博宛（一九四九年）	247
柏村二郎宛（一九五〇年）	249
川合仁志宛（一九五一、一九五二、一九五五年）	251

目 次

解 說

小林 稔

337

病床日記(一九七八年)	19
収録著作索引	I

『原爆・水爆とビキニ死の灰まで』(福田信之著)序にかえて	292
『輻射の量子論』(ハイトラウ著)序	295
『相対性理論』(メラウ著)すいせんのことば	298
『宇宙線の話』はじめに	300
『学生百科新事典』監修のことば	312
『量子力学』(ディラック著)推薦文——理想的な量子力学の教科書——	315
『鏡のなかの世界』はしがき	316
『科学と科学者』はしがき	317
『量子力学』(I)第二版の序文	318
『現代物理学の思想』(フランク著)推薦文	319
『岩波講座現代物理学の基礎』推薦文——基礎部門とフロンティアを結ぶ——	320
『原子爆弾』(仁科記念財団編纂)刊行のことば	322
『原子爆弾』(仁科記念財団編纂)序文	323
『かに星雲の話』(小田稔ほか著)推薦文——謎ときの楽しさ——	326
『スピンはめぐる』あとがき	327
『庭にくる鳥』まえがき	329
『X線天文学』(小田稔著)推薦文——湯気のたつような話をとどけてくれる——	331
著者略年譜	332